

白老東高の地域学 コンソーシアム代表者会議

白老東高校が地域とともに地域課題探求型の学びを推進する第1回地域コンソーシアム代表者会議が5日9日に開かれました。関係者30人が出席した会議では、田村直美会長（NPO法人ウテカンパ）、大木康弘副会長（白老東高校校長）、佐藤雄大（地域コーディネーター）、大塩英男町長が地域ぐるみで事業をサポートする態勢充実に協力を呼び掛けました。続いて令和5年度に生徒が地域学として取り組んだ商店街の魅力発見やアイヌ文化学習の取り組みなどが紹介されました。6年度は1～3年生が外国人居住者との多文化共生、地域の産業、仙台藩白老元陣屋の探求などに取り組む予定です。

コンソーシアム代表者会議は、令和3～5年度まで、北海道教育委員会の「CLASSプロジェクト」の指定を受けて高校と地域（商工会、観光協会、アイヌ協会、アイヌ民族文化財団など）が一体となって地域課題探求型の学習体験などを行ってきましたが、6年度からは道教委に代わって白老町がバックアップして事業を進めていきます。



虎杖、竹浦小で発明アイデアワークショップ

白老青年会議所（道見翔太理事長）は、世界初の小型純電気式計算機を発明した故榎尾俊雄氏の業績を展示・公開している榎尾俊雄記念館を運営する榎尾俊雄記念財団（東京）などと共催で、特別課外授業「発明アイデアワークショップ」を虎杖小学校、竹浦小学校で開き、子どもたちが発明について考えました。榎尾氏はカシオ計算機の創業者の一人です。

竹浦小では3～6年生13人が参加。カシオ計算機の相原ゆかりさんが「G-SHOCK」（腕時計）の開発ストーリーを紹介。続いて、相原さんら6人が講師となり、子どもたちが「どこでも温泉に入れるアイデア」を考えました。子どもたちからは「ドローンで温泉を運べるようにする」、白老の温泉を世界に送る「世界温泉ネットワークの構築」などの意見が出されました。

虎杖小でも3～6年生20人から「たくさんの種類の温泉を折りたたんで運べるようにする」「スマホで予約すると温泉ホテルが5分でやって来る」などの名案、が出されていました。

同財団から子どもたちには発明の認定証が交付されました。

（5月10日）



竹浦小



虎杖小